

私たちは日常生活を送る中で自然に自己中心に陥りやすいものです。大間として生まれる事が出来た「**父母の恩から人生は始まります**」。生活するためには国家社会の恩、食べるには天地の恩、食材を買う為には経済の恩恵があり、健全な肉体等、色々な恩恵を受けて初めて普通に生活することが可能になる訳です。熊本・鳥取・東北と今年も地震がありました。災害時の報」に接すれば日頃の恩恵は一目瞭然です。一年・一年と年を重ね老いていくわけですが全てが生から死に向かって歩いている訳です。先祖からの恩恵ある無しに関わらず、子々孫々循環しながら現存する氏とし続いてほしいのです。世は自己を中心として色々な繋がりをもって縁が芽生えて往く訳ですが縁と認識しない中にも間接的に結ばれていることが多々あるのです。「二期一会・一機一縁」も自己の認識のもとに縁が結べるのは一部のことでしょう。自己の要求から縁を構築するならいざ知らず他からの引き合わせにより頂く縁も多々ある訳です。天地自然の成合から生じて来る大いなる縁、生活の中から心の拠り所として**物縁よりも佛縁**」を求めて頂きたいものです。檀信徒の皆様方にとって往生には佛縁を頂くしかありません。**縁なき衆生は度し難し**」と申します。度し難し」とは救いようが無い、という事で、言い換えれば佛の導きなくして死出の旅は出来ないという事です。暦と同じで十二月で年改まり、一月に戻ります。人間も往生 死して変わり、新しく誕生) するのです。寿命は蟬のように短いものもあり、又、樹齡何百年という木もありと、生命は神秘なものです。全てが因縁によって結ばれてくるものであると思います。**良き縁を結ぶ基本は信頼です**。ですから信頼できるかどうかの判断が必要になってくるわけです。教義の内容ですが、導く人間が信頼関係を構築していく訳ですから仏教を知らなくても釈迦という人間に接すれば納得がいく事ですし、空海や法然等各祖師方の教えを少ししか知らなくても**人柄が信頼関係を作った**のであって教えは付随してきたものと言っても過言では無いと思っています。歩くも・座るも・食べるも・説法している時も・一人座していても・寝ても・他から**見られようと見られていなかろうが全てが念佛の中に成り、法然の善の姿**であったらうと思います。法然上人の生き様が我々に安心安全安泰を与えたのでしょうか。要は人間としての信頼関係が基本です。我々は信仰を基盤として心と心の信頼関係なくして善の社会を構築できません。営利を求めなくてはならない会社にあっても善の心を失わず、社会の為に貢献して頂きたいと思えます。経済の発展が電通の様に無理矢理人間性を無視し機械の様に働かせたとしたらストレスから自らの生命を犠牲にする人も出るでしょう。昨今はマニュアルに頼る為、独自性が無くなってきたように思われます。政治の世界はマニフェストを作成するも理想が高く実現度は低く国民は冷めた思い出ている訳で、とても信頼関係が成り立っているとは思われません。韓国も大変です。日本は大丈夫でしょうか。予定は決めた時から自分を拘束する事だと養老猛司教授がおっしゃいましたがまさにその通りです、計画実現の為にあれもしなくてはこれもやらなくてはと重圧を感じる訳です。自分で自分の好きなように時間を使っているように見えても実は他からの制約に悩まされている訳です。それがストレス、生きている証あかしかもしれません。希望に燃えた一年でしたか、皆様如何でしたか。

満足できる年末をお迎えください。

二十八年十二月一日

善書堂主人院油掛地蔵